

**在スロバキア日本国大使館**  
**政治・経済月報（2015年2月）**

目 次

**内 政**

- ◆同姓婚等に関する国民投票 . . . . . 2

**外 政**

- ◆ライチャーク外相の中国訪問 . . . . . 2  
◆フィツォ首相のウクライナ訪問 . . . . . 2  
◆ライチャーク外相と潘基文国連事務総長との会談 . . . . . 3  
◆キスカ大統領のマイダン1周年記念式典への出席 . . . . . 3

**社 会**

- ◆鉄道定期券の値下げ . . . . . 3

**経 済**

- ◆スロバキア・ハンガリー原油パイプラインの開通 . . . . . 3  
◆ズベルバンク・スロバキアの売却 . . . . . 4  
◆中国企業グループのスロバキアへの進出 . . . . . 4  
◆フィンランド企業のスロバキア電力会社への関心 . . . . . 4  
◆スロバキア中央銀行月報（2月） . . . . . 5

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

## 内 政

### ◆同姓婚等に関する国民投票（２月７日）

市民団体「家族のための同盟」が同姓婚等に関する国民投票の実施を提唱し、署名を集めた結果、約４０万人の署名が集まり（国民投票の実施に必要な署名は３５万）、国民投票の実施に到った。

質問内容は、①一人の男性と一人の女性の間のもの以外は「婚姻」と呼ばないようにすることに賛成するか。②同性のカップルやグループが養子を取り、その子供を養育することができないようにすることに賛成するか。③児童自身あるいは児童の両親が授業の内容に同意しない場合、学校は性教育及び安楽死に関する授業に児童の出席を求められないようにすることに賛成するか。

投票の結果、投票率は２１．４％で、必要投票率（最低５０％）を満たさなかったため国民投票は不成立となった。

## 外 政

### ◆ライチャーク外相の中国訪問（２月２～４日）

２日、ライチャーク外相は、上海を初めて訪問し、屠光紹副市長と会談を行った。会談の目的は上海及び周辺地域でのスロバキア企業の事業拡大への支援等に関するより緊密な協力の可能性を議論することであった。上海市域では約２０のスロバキア企業が活動している。

３日には北京の中国社会科学院での講演において、今日の世界における中国の役割の高まりを指摘すると共に、中国の貢献無しに、政治、安全保障、エネルギー、気候変動等の諸問題の解決は不可能であることを強調した。

４日には北京において王毅外相と会談を行った。ライチャーク外相は、スロバキアのＶ４議長国期間中に「Ｖ４＋中国」協力を開始することについても王毅外相と合意した。

### ◆フィツォ首相のウクライナ訪問（２月６日）

フィツォ首相は、ポロシェンコ・ウクライナ大統領との会談において、本年３月１日よりスロバキアからウクライナへのガス輸送を増量するための技術的準備が整うことを説明した。フィツォ首相は、「輸送量は年間１１５億立方メートルから、ウクライナの年間需要の３分の１に相当する１４５億立方メートルに増量される」と述べると共に、両国がガス・トランジット維持のために調整していく必要があることを強調した。また、ビジネス関係の進展を呼びかけ、ポロシェンコ大統領に対し、４月２０日～２３日にスロバキア東部で開催される企業家フォーラムへの支援を要請した。同フォーラムにはウクライナから２００～２３０社、スロバキアから約１４０社が参加する予定である。

#### ◆ライチャーク外相と潘基文国連事務総長との会談（２月１１日）

ライチャーク外相と潘基文事務総長は、ニューヨークの国連本部において、治安部門改革、ウクライナ危機、テロリズムとの戦い等について話合った。紛争国における治安部門改革の問題は、１２日のフレンズ・グループ会合でスロバキアが共同議長国を務めたことから、最も高い関心が払われた。潘基文事務総長は、同テーマの重要性を強調すると共に、スロバキアの積極的な働きかけを評価した。ウクライナ情勢について、ライチャーク外相は国際法及び国連の尊重を原則とするスロバキアの立場を説明した。現在のＩＳＩＬに代表される国際的なテロリズムについては、脅威が国家的、地域的なものだけでなく、中東を超える範囲に及んでおり、直接、間接に関わるすべての人々の協力によってのみ対処可能であることを改めて強調した。

#### ◆キスカ大統領のマイダン１周年記念行事への出席（２月２２日）

キスカ大統領は、各国首脳及び数千人のウクライナ国民と共に、キエフで行われたマイダン抗議運動の１周年記念行事に参加した。同大統領は、「マイダン抗議運動は、民主主義に向かい、民主的欧州の一員となることを望み、オリガルヒや収賄を否定するウクライナ国民の意志の表明であった。マイダンに参加した人々は、ウクライナの生活をより民主的なものにするために命をかけた」と讃えた。

### 社 会

#### ◆鉄道定期券の値下げ（２月１日）

２月１日以降、週単位あるいは月単位の鉄道の定期券を購入する人々は通常の半額を支払うのみとなる。交通・建設・地域開発省は、労働者の鉄道利用促進及び鉄道通勤者の支援に関する政府の決定を実行に移した。電車通勤の人々の家計は年間数百ユーロ節約できる見込みである。ポチアテク交通相によると、人々の電車通勤を促進し、旅費がビジネス出張の妨げとならないように支援することが目的である。この変更により、ジリナーポヴァシュスカー・ビストリツァ間の通勤客は、年間４０７ユーロを節約できる。また、ブラチスラバーノヴェー・ザームキ間では１０５６ユーロの節約となる。

### 経 済

#### ◆スロバキア・ハンガリー原油パイプラインの開通（２月９日）

スロバキアのTranspetrol社とハンガリー・ガス石油会社はアドリア・ドルジバー１原油パイプラインの改修工事を完了した。同工事により、ハンガリーのサーズハロムバッタとスロバキアのシャヒを結んでいたパイプラインが刷新さ

れた。開通式はスロバキアのトゥパーにあるTranspetrolのポンプステーションにおいて行われた。7000万ユーロ相当の投資により、アドリア海からスロバキアへの原油の輸送が可能となった。改修工事は2011年秋から行われていた。改修により、スロバキア向けの原油輸送量は年間350万トンから600万トンに増加する。

#### ◆中国企業グループのスロバキアへの進出（2月19日付プラウダ紙）

中国の巨大企業グループは、経済制裁によってスロバキアの多くのプロジェクトから撤退したロシア企業の穴を埋めているように思われる。昨年、スロバキアの金融グループであるJ & TがChina Energy Companyと提携し、更に、中国核工業集団がスロバキア電力会社（SE）の買収に名乗りを上げた後、現在は、高速道路D4のブラチスラバのバイパス及び自動車道R7の建設で、スロバキアの建設会社ヴァーホスタフと中国との協力が始まりつつある。道路は全長約60キロメートルで、官民パートナーシップによるプロジェクトの見積額は30年で40億ユーロ以上と見込まれている。ヴァーホスタフは、今後の入札次第で、中国企業がプロジェクトの一部を担うと想定している。

#### ◆ズベルバンク・スロバキアの売却（2月24日付スメ紙）

ロシアのズベルバンクはズベルバンク・スロバキアの売却を決定した。決定の理由としては、経済の鈍化、ルーブルの下落、ウクライナ情勢等、企業活動にとってより好ましい環境が見出されないことが考えられる。アナリストは、ズベルバンク・スロバキアが2014年には、営業利益を増加させ、個人預金及び法人部門においても拡大したことに言及し、投資家にとって魅力的に映っていることを指摘した。同銀行には、スロバキアのペンタ・グループ、イタリアのユニクレジットバンク、ハンガリーのOTPバンクが関心を持っていると見られる。売却額は、ズベルバンク・スロバキアの2013年の業績に基づく、2億ユーロ前後と見積もられる。

#### ◆フィンランド企業のスロバキア電力会社への関心（2月25日付経済新聞）

スロバキア電力会社（SE）を巡る戦いに、新たにスカンジナビアの企業が登場する。フィンランドのFortum社は、すでに、SEの最大株主である伊Enel社に買収への関心を伝え、売却に関する精査のために必要となる資料を入手している。Fortumは、北欧及びバルト地域以外では、ポーランドやロシアでも活動しており、SEへの関心も自然なものと考えられる。スロバキアでは、SEのモハウツェ原発増設が行われているが、新たな買収先には、プロジェクトの完了が期待される。

## ◆スロバキア中央銀行月報（2月）

### 1. GDP

2014年第4四半期のユーロ圏の経済成長は当初の予測を上回る0.3%に達すると見込まれる。第4四半期のスロバキア経済は、安定的で比較的力強い成長が継続し、前期比0.6%増となった。2014年の前年比での経済成長率の速報値は2.4%であった。前年同期比1.2%増となった第4四半期の売り上げは、国内経済においてより高い需要があることを示している。12月の鉱工業生産は前年同期比で0.6%増加した。第4四半期には、建設部門の落ち込みが止まり、自動車の売り上げと輸出の下落にも歯止めがかかった。

### 2. 雇用率及び賃金

統計局の速報値によると、雇用率は前期比0.6%の上昇となり、2014年全体で最大の上昇率であった。1月の失業者数データは、前年末の大幅な改善が必ずしも第1四半期に繰り返されるとは限らないことを示している。1月の季節調整前の登録ベースでの失業率は、前月比0.1%増の12.39%であった。特定部門における12月の平均賃金の伸びは前年比で5%に達し、第4四半期全体では、3.2%の上昇に留まったが、それでも第3四半期の伸び率を上回るものであった。12月の平均名目賃金は896.9ユーロであった。

### 3. 物価

1月には、前年同期比で、更なる価格の下落が見られた。1月の消費者物価指数は前年同期比で0.5%の下落、前月比では0.1%の下落であった。食料品価格の大幅な下落が全体的な物価水準の前年同期比での低下を加速させた。サービス価格は鈍化し、エネルギー（燃料）価格は前年同期比での更なる下落が見られた。2015年には、エネルギー価格のマイナスの動き及び1月のサービス価格の極めて鈍い伸びを受け、非常に低い水準のインフレが予測される。

### 4. 貿易

第4四半期にはプラスとなった商品輸出に関する貿易データは外需の復調を示している。第4四半期の輸出は前期比9.1%増となった。これはユーロ安がドイツの輸出企業を後押しし、スロバキアの輸出を引き上げることに繋がったと考えられる。第4四半期の輸入は輸出以上の伸びを見せ、前期比で10%増となった。これは家庭消費需要の増加を示していると考えられる。第4四半期の貿易収支は、4億6300万ユーロの黒字となった。

（了）

# スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

